

報道関係 各位

【発行のご案内】

明日の国際保健医療協力 magazine

最新号 『NEWSLETTER』 vol.17/2022

特集 グローバルヘルスと「移民の健康」

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（略称：NCGM）国際医療協力局は、“明日の国際保健医療協力 magazine”の最新号として『NEWSLETTER』2022/vol.17 を発行しました。



『NEWSLETTER』は、グローバルヘルス、国際保健医療協力の潮流やキーワード、国際医療協力局の活動のご紹介を通じて、グローバルヘルスと国際保健医療協力の実際についてご理解をいただく広報誌です。2010年の創刊以来、今回で通算第34号の発行となります。



最新号の特集は、「グローバルヘルスと『移民の健康』」です。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックによって浮き彫りとなった移民の健康格差と健康危機への脆弱さ。

その「移民の健康」をテーマに、2022年7月、世界保健機関（WHO）から初の世界レポートが発行され、移民の健康課題に対する取り組みの重要性が強調されました。

今回は NEWSLETTER Vol.15「日本の中のグローバルヘルス」の続編として、よりグローバルな視点で捉えた「移民の健康」と、日本国内で取り残されがちな人を医療にたどり着けるようにする国際医療協力局の取り組みをアップデートしてお届けします。



NCGM 国際医療協力局は「取り残されがちな人々（女性と子どもを含む）の健康」を重点的に取り組む5つのテーマ・事業領域のひとつとして様々な活動をしています。移民はまさに取り残されがちな人々であり、彼らが保健医療に十分にアクセス出来る保健医療システムを構築することは“誰一人取り残さない” SDGs時代の社会の実現を目指す上で、極めて重要な課題であると考えています。

『NEWSLETTER』 VOL.17/2022 の概要は、以下の通りです。

『NEWSLETTER』 vol.17/2022

特集 グローバルヘルスと「移民の健康」

- 仕 様 : A5 サイズ、24 ページ、カラー印刷
- 発 行 日 : 2022 年 9 月 30 日
- 発 行 者 : 国立国際医療研究センター 国際医療協力局
- 内 容 :
- ◎ NCGM 国際医療協力局 NEW TOPICS
 - ◎ 特集 グローバルヘルスと「移民の健康」
 - ・ 取り残されがちな人の健康を守る 「移民の健康」って何だろう
 - ・ なぜ「移民の健康」が重要なのか
 - ・ 日本の中で「移民の健康」に取り組む
 - ・ 新型コロナウイルス感染症と外国人の保健医療アクセスの支援
 - ◎ 国際保健医療協力の専門家のキャリアパス グローバルヘルスへの道
NCGM 国際医療協力局上級研究員/保健学博士
JICA コンゴ民主共和国/保健人材開発支援プロジェクト フェーズ 3
チーフアドバイザー 松岡 貞利
 - ◎ EVENT INFORMATION



『NEWS LETTER』 VOL.17/2022

《ご参考》 『NEWS LETTER』 発行リスト

	発行号	特 集
1	2022年vol.17 (最新号)	グローバルヘルスと「移民の健康」
2	2022年vol.16	ポストコロナへ - 国際保健医療協力の新たな取り組み
3	2021年vol.15	日本の中のグローバルヘルス
4	2021年vol.14	看護職とグローバルヘルス
5	2020年vol.13	新型コロナウイルスに挑む国際保健医療協力
6	2020年vol.12	ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ 世界中のすべての人に健康を
7	2019年vol.11	グローバルヘルスと「医療の質」 SDGs時代の患者安全
8	2019年vol.10	保健医療が支えるTOKYO2020
9	2018年vol.9	アウトブレイクから人々を守る 感染症健康危機管理
10	2018年vol.8	誰ひとり取り残さない 持続可能な開発目標-SDGs-で社会を変える
11	2017年vol.7	コミュニティの力で健康をつくる 国際保健と地域保健の共通点
12	2017年vol.6	NCGMの何が国際なのか グローバルヘルスの岐路と新たなニーズ
13	2016年vol.5	医療の国際展開 途上国支援の新しいアプローチ
14	2016年vol.4	院内感染を防ぐ 途上国にもウイルスや細菌に負けない病院を
15	2015年vol.3	研究とフィールド調査 途上国を歩いて課題解決の鍵を探る
16	2015年vol.2	新しい命の 28 日間 途上国で挑戦する新生児ケア
17	2015年vol.1	国際機関 世界を助けるお金の活かし方
18	2014年秋号	ラオス 子どもの笑顔から始まる未来
19	2014年夏号	お母さんの声が聴きたい 安心して赤ちゃんが産める地域づくり
20	2014年春号	ジェンダーギャップ NEWSLETTER世界の片隅で女性を生きる
21	2014年冬号	病院から青空の下へ 地域とつなぐ HIV 治療
22	2013年秋号	看ることと育てることと 国際看護師
23	2013年夏号	5S整理・整頓で幸せになる！
24	2013年春号	国づくりは、人づくり～ 開発途上国の保健医療人材が育つために～
25	2013年冬号	ワクチン 命を守るクスリ
26	2012年夏秋 合併号	MDGs 期限まで3年世界は変わったか？
27	2012年春号	東日本大震災 宮城県東松島市で復旧・復興支援を続けて
28	2012年冬号	創立25周年記念特別編集号 国際保健医療協力活動の軌跡と展望
29	2011年秋号	グローバル・ヘルス なぜ開発途上国の健康問題を考えるの？
30	2011年夏号	国際医療協力部における 東日本大震災の復旧・復興支援活動
31	2011年春号	保健システム強化のための人材開発
32	2011年冬号	母子保健分野の国際協力
33	2010年秋号	近くなったアフリカ 感染症対策について考える
34	2010年夏号 (創刊号)	僕たちとどこか似ている国 ベトナムへの保健医療協力

※ 『NEWS LETTER』 のバックナンバーは、国際医療協力局ウェブサイト（以下 URL）から全てダウンロードできます。

<http://kyokuhp.ncgm.go.jp/library/newsletter/index.html>



【NCGM 国際医療協力局について】

NCGM 国立国際医療研究センター国際医療協力局は、グローバルヘルス分野における専門機関として、厚生労働省、外務省、国際協力機構（JICA）等の政府・関係機関や、世界保健機関（WHO）をはじめとする国際機関、大学・研究機関・学会等のアカデミア、さらには NGO や企業等の幅広いパートナーと連携し、低中所得国における技術協力プロジェクトへの専門家派遣、国内外の保健医療人材の育成のためのさまざまな講座や研修の提供、国際保健医療の研究、国際会議等を通じた政策提言など、低中所得国の医療や保健衛生の向上を図るためさまざまな活動を行っています。

★本件に関するお問い合わせ先

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）
国際医療協力局 広報情報課

昆 弘人
こん ひろと

〒162-8655

東京都新宿区戸山 1-21-1

TEL : 03-3202-7181（代表）内線：2744

E-mail : koho@it.ncgm.go.jp

<https://kyokuhp.ncgm.go.jp/index.html>